

## CD ショップ大賞〈青〉受賞

### kurayamisaka インタビュー

#### アルバム『kurayamisaka yori ai wo komete』に込めた強度と、CD という“出会い”の物語

CD ショップ大賞〈青〉受賞という快挙を成し遂げた kurayamisaka。流通の最前線に立つ CD ショップスタッフから選ばれた今回の受賞を、彼らはどう受け止めているのか。アルバム制作の手応え、CD というフォーマットへの思い、そしてバンドとして描く未来について、清水氏に話を聞いた。

---

#### 「嘘でしょ？」——受賞の実感と、現場からの評価

——この度は CD ショップ大賞〈青〉受賞、おめでとうございます。率直なお気持ちをお聞かせください。

##### 清水：

ノミネートの時点でかなりびっくりしたんですが、大賞と聞いて本当に光栄でした。メンバー全員、LINE グループで「嘘でしょ？」みたいな反応でしたね。

CD ショップのバイヤーさんや店員さんが投票してくださっている賞なので、日々音楽の現場に触れている方々が選んでくれたというのが一番嬉しかったです。実際に“手で触れて”音楽を届けている人たちに選んでもらえたことは、本当に光栄です。

---

#### 「一部の世界の出来事」から、確かな広がりへ

——アルバム『kurayamisaka yori ai wo komete』には、かなりの手応えがあったのでは？

##### 清水：

やっぱり街に出たら、kurayamisaka はまだまだ全然誰一人知らないようなバンドだとは思っています。

でも、広がりを感じられるのは純粋に嬉しいですね。アルバムを出したときも、即効性を求めていたわけではなくて、「10年後、20年後に誰かがわかってくれたらいい」という気持ちで作っていました。それでもリリース時点でこれだけ聴いてもらえたことは、本当に嬉しかったですし、ありがたかったです。

---

## アルバムという“強度”——時間を超えて刺さる作品へ

——この年末年始には『バズリズム 02』（日本テレビ系列）出演や、Spotify Early Noise 選出など、メディアでも注目されていると思いますが、この作品の手応えみたいなのところっていうのは、清水さんの中でも今できる力を最大限この作品に込められたなと感じますか？

**清水：**

制作当時は必死でした。でも時間が経つと「もっとできたかも」と思う部分も出てくる。だからこそ、次はどうしようかと考えています。

——CDとして残す意味についてはどう考えられていますか？

**清水：**

そうですね。やっぱりこの12曲を通して聴くことでしか味わえない楽しさや感慨深さ、何か感じるものがあればなっていう気持ちでも作っていて。今すぐ伝わらなくてもいい。僕たちが死んだ後でも、誰かに刺さる強度を持った作品であればいい。そういう思いで作っています。

石碑のように残したいわけじゃないんです。

丸い石みたいな。誰かが浜辺で見つけたら人によってはただの石だけど、見る人が見ればたまらないみたいな。そんな作品になれば嬉しいですね。

---

## CDとの出会いが、バンドの原点

——初めてCDを手にとったのは？

**清水：**

地元の古本屋ですね。100 円や 500 円で買っていました。中高生の頃です。もちろん当時から YouTube とかはありましたけど、やっぱりそういうところで CD を探して聴いたりとかしてました。

—初めて買った CD っていうのは。

初めて買った CD はオレンジレンジの「\*~アスタリスク~」。ASIAN KUNG-FU GENERATION はその後ですね。

当時買っていたのは 10 年前、20 年前の作品や、自分が生まれる前の音楽もありました。

今だったらサブスクだったりするのもかもしれないけど、CD として流通していたからこそ、巡り巡って僕の手が届いた。人生を変えられちゃったりとか、そういう出会いをいまだに信じている部分はあるんで。

だから、将来誰かが僕らの CD をどこかで見つけてくれたら嬉しいですね。

---

### 曲順へのこだわり——最初の 3 曲に込めた覚悟

——アルバムの曲順にも強い意識が感じられます。

**清水：**

最初の 3 曲はアルバムの“顔”だと思ってるんですね。3 曲が良ければ最後まで聴いてもらえるかもしれない。そこに一番力を入れました。

自分が聴く側に立った時にテンションが上がるなというものを詰め込んだり、ライブの流れも意識しつつ作っていますね。

---

### ジャケットの統一感とオマージュ

——女性アニメ画のジャケットにはモチーフが？

**清水：**

ASIAN KUNG-FU GENERATION の統一感がすごく好きで、参考にしていま

す。今後も続けるかはわかりませんが、今はこの世界観を大事にしたいですね。

## 全国流通、初の店頭挨拶で感じた“音楽愛”

今作は全国流通として初のリリース。CD ショップ周りもたくさんしていただいたのですよね。今回お店回りされた時の思い出とかご感想とかありますか？

清水：

店舗ごとに推しポイントが違うのが嬉しかったですね。

ジャケットの花束に本物の花を飾ってくれたり、長文コメントを書いたり。ちゃんと聴いてくれたんだというのがすごい伝わってきて“音楽が好きだからこういうところに勤めてるんだな”みたいなのはすごく感動しましたし、マニュアルではない熱量が伝わってきました。

タワーレコード渋谷店さんは確か僕がもう一個やってるバンドの「せだい」も置いてくれていて。なんかそういうところまで知ってくれているんだっていうのも嬉しかったです。

本物のお花を飾ってくれたのは HMV の方ですね。

あと、ちょうど「今買ったところです」と声をかけてくれたお客さまもいて、ライブ以外でこういう人が聴いてくれたんだなって、また違う形でお客様と出会える喜びを感じました。



HMV エソラ池袋店

(ジャケットのお花の部分に生花が!!)



タワーレコード新宿店



タワーレコード渋谷店

## kurayamisaka を初めて聴く人へ

### 清水：

僕らはバンドが好きな兄ちゃん姉ちゃんの集まりです。全部が刺さらなくてもいい。1曲でも好きな曲が見つかれば嬉しい。

そこから僕らが憧れたバンドに通ずる部分があったりだとか、逆に僕たちが憧れたバンドをまだみんなが知らなかったら、ちょっと辿って聴いてみたりとか。それが出会いのきっかけになって、もっといろんなバンドを好きになってくれたら、それが僕らは一番嬉しいです。そして気に入ったら、ぜひ友達や家族、職場の人にもっと僕たちを薦めたりとかしたら…薦めてください。

---

## これからの抱負

### 清水：

たくさん曲を作って、ライブをして、何年かに一度アルバムを作る。そのサイクルを続けられることが一番嬉しい。いつまでもバンドを続けられたらと思っています。

---

## 清水さんにとってのCDの魅力とは

### 清水：

CDには当時の空気が閉じ込められている。新譜、旧譜関係なく、聴いた瞬間が、その人にとってのタイミングだと思っています。

古いCDを開けた時の匂いまで含めて、何か楽しいことが待ってると思うので。

買って、売って、また誰かの手に渡る。そのサイクルも素敵ですよ。

ぜひ、たまにはCDを手にとってみてください。

---

## インタビューアー

CDショップ大賞実行委員長 タワーレコード 商品統括部 久保山 拓耶



## 作品情報

**kurayamisaka 『kurayamisaka yori ai wo komete』**

CD ショップ大賞 〈青〉 受賞作品